

令和元年度 第4回 沖縄県子ども・子育て会議 議事概要

1 開催日時

令和2年2月10日（月）10:00～11:28

2 開催場所

沖縄県教職員共済会館「八汐荘」中会議室

3 出席者

(出席)

- 池原 基生 委員（沖縄県私立幼稚園連合会副理事長）
- 石川 修治（日本労働組合総連合会沖縄県連合会副事務局長）
- 石嶺 元子 委員（社会福祉法人日本保育協会沖縄県支部中北部地区理事）
- 上野 さやか 委員（特定非営利活動法人おきなわCAPセンター事務局長）
- 大城 貴子 委員（沖縄中部療育医療センター地域療育課課長）
- 狩俣 みつ穂 委員（公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会ゆいはあと中部副責任者）
- 城間 幹子 委員（沖縄県市長会会員（那覇市長））
- 末広 尚希 委員（沖縄県認可外保育園連絡協議会会長）
- 玉城 孝 委員（沖縄県児童養護協議会会員）
- 長嶺 久美子 委員（一般社団法人沖縄県私立保育園連盟副会長）
- 名渡山 よし乃 委員（沖縄県公立幼稚園・こども園会会員）
- 二宮 千賀子 委員（一般公募）
- 銘苅 桂子 委員（沖縄県医師会会員（琉球大学医学部附属病院））
- 山城 眞紀子 委員（沖縄キリスト教短期大学特任教授）

(欠席)

- 下地 イツ子 委員（一般社団法人沖縄県PTA連合会会長）
- 謝花 博一 委員（沖縄県学童保育連絡協議会会長）
- 仲間 陽子 委員（沖縄県保育士会会長）
- 仲本 豊 委員（一般社団法人沖縄県経営者協会理事）
- 浜田 京介 委員（沖縄県町村会理事（中城村長））

以上 委員19名中14名出席

(事務局)

子育て支援課、青少年・子ども家庭課、障害福祉課、地域保健課、健康長寿課、
労働政策課、雇用政策課、義務教育課、生涯学習振興課、県立学校教育課

4 会議次第

1 開会

2 委嘱状交付

3 新任委員自己紹介

4 議事

黄金っ子応援プラン(第二期沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画)案について

5 閉会

5 配布資料

①会議次第及び配付資料

②座席表

③沖縄県子ども・子育て会議委員名簿(令和2年2月10日現在)

④資料1 黄金っ子応援プラン(第二期沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画)案

⑤資料2 画素案からの主な変更点

⑥資料3 黄金っ子応援プラン(第二期沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画)」に対する県民意見への考え方・対応について

⑦資料4 本計画の施策とSDGsの関係

⑧資料5 黄金っ子応援プラン(第二期沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画)における量の見込みと確保方策

⑨参考資料1 沖縄県SDGs推進方針

⑩冊子 黄金っ子応援プラン(沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画)

6 議事要旨

〔事務局〕 会長が議事を進行するまでの間、事務局が進行を行った。

- 事前配付資料及び当日配付資料確認
- 委嘱状交付 子ども福祉統括監から改選委員に委嘱状交付
- 改選委員 挨拶
- 定足数の報告

委員19人中14人出席。沖縄県子ども・子育て会議設置条例（以下「条例」）第6条第2項による定足数を満たしている旨報告。

- その後、会長が議事を進行した。

〔会長〕

○ 平成27年3月に策定された第一期「黄金っ子応援プラン(沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画)」から5年が経過し、今年度4月から第二期を策定中である。

本日は、今年度4回目の最後の会議であり、忌憚のない積極的なご発言を期待している。

第4回子ども・子育て会議を議事次第に沿って進めたい。

議事

(1) 黄金っ子応援プラン(第二期沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画)案について

〔会長〕

- 事務局からご説明願いたい。

〔事務局〕 資料1 資料2 資料3 資料4 資料5

黄金っ子応援プラン(第二期沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画)

案について説明

〔会長〕

- 黄金っ子応援プラン(第二期沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画)案につて、今回は、パブリックコメントの3件の意見を踏まえ、委員から意見を承りたい。

〔委員〕

○ 資料1(65ページ)、具体的支援策に、第3回(令和元年11月20日開催)の段階では、資料2(新旧対照表)の追加修正として「母子生活支援モデル事業の実施」を「⑦各家庭に応じた総合的な自立支援の実施」と具体的な記入としていたが、現在の案では削除されている。可能であれば掲載してほしい。

〔事務局〕

○ 現計画の「母子生活支援モデル事業」について、委員から支援内容を具体的に書いて欲しいとの要望があり、「各家庭に応じた総合的な自立支援の実施」との表現に修正した。今回資料で抜け落ちているため、記載したい。

〔委員〕

○ (資料5)令和3年末で待機児童がいなくなる数字が出ているが、3号(0歳)については、「確保-量」が0や1の市町村も多い。この状況では保育士が1人退職したら、すぐに待機児童になってしまい、計画通りにいなくなる。

そのためにも、保育士の処遇改善や人材確保、新たな人材の掘り起こしをしっかりとやっていただきたい。沖縄県の力を結集して、子どもたちのために黄金っ子応援プランを実現してほしい。

〔委員〕

○ 今、認可保育園、認定こども園、幼稚園等も含め、次年度入所の可否の通知が市町村から届く時期であるが、まだまだ待機児童が多いという感覚がある。

1点目、兄弟・姉妹が別の園に預けられるケースが沖縄では発生する。市町村から下の子と上の子と違う園でなら入園できると言われ、断ると待機児童になる。待機児童の量の見込みと確保方策の数合わせが待機児童の解消ではない。数合わせのやり方では保育の本質を見失う。沖縄県・市町村は、保護者の心に寄り添い、一緒に子育てをする役割を担ってほしい。

2点目、資料5(4ページ)、令和2年度、3号(1・2歳)の糸満市は-38、南風原-142で深刻な状態だとわかる。

2月に糸満市から玉城知事に陳情が提出されたが、沖縄県認可外保育園連絡協議会でも園長サミットを開催し、沖縄県に政策提言したことの1つは、認可外保育園と認可保育所の

保育格差をなくすべきであるということ。現在、認可外保育園に通う9,000名近い子どもはほとんどが待機児童である。認可外保育園の認可化を進めてほしい。

基準を満たせない認可外保育園を幼児教育無償化の対象にすることを先に決めるより、保育格差を解消し、本土並みの認可保育所（私立保育園）の比率に近づけてほしいが、その実現を危惧している。

計画の実現は厳しいと思うが、認可化を進めること、数合わせの形だけの確保方策にならないようにということを意見として申し上げたい。

〔事務局〕

○ 待機児童解消は、数合わせではなく、質の確保も踏まえ、きめ細かな入所調整、兄弟・姉妹が一緒に通えるように、沖縄県も市町村と連携して取り組んでいきたい。

糸満市、南風原町など重点的に取り組まなければいけない市町村については、県も一緒になって精力的に取り組んでいきたい。

認可外保育園にいる子どもたちも、認可保育所同様、可能な限り、質の確保を目指して取り組んでいきたい。

糸満市からの陳情も承知している。定期的に認可保育所の代表者と意見交換をしてほしいという切実な要望があったので、できるだけ皆さんの意見を聞き、現場にも行きたい。遠慮なく沖縄県に相談をしてほしい。

〔委員〕

○ 多くの市町村で待機児童の課題は、施設整備ではなく次の保育士確保のステージに入っていると思う。那覇市も、まず器をつくり、そこに皆が入所すれば待機児童は解消される。しかし、委員のお話のように、保護者のニーズに細やかに対応するには、まだ待機児童は未解消の現状である。

そこで保育士不足の窮地を脱するための沖縄県への提案として、沖縄県で地域限定保育士の導入を検討してほしい。現在、沖縄県では地域限定保育士試験は実施されていないが、神奈川県において導入されている地域限定保育士は、全国実施の試験2回に加えて、更にもう一度、地域限定保育士試験を実施し、実技試験を実技講習と引きかけに免除するものとなっている。

他にも、公定価格見直しや県独自の処遇改善も検討いただき、必要数の保育士確保に向け

た市町村の支援を引き続きお願いしたい。

最後に「黄金っ子応援プラン(沖縄県子ども・子育て支援事業支援計画)」策定において、沖縄県の皆様のご尽力に敬意を表したい。

〔事務局〕

○ 委員ご指摘のとおり、待機児童解消の1番の柱は、施設整備ではなく保育士の確保であると認識している。

地域限定保育士試験は国家戦略特区の指定を受けて実施するものであるもので、市町村や現場の意見を聞いて考えていきたい。年に3回の試験を開始するのはスケジュール的に厳しいが、要望として承りたい。

いかに保育士を確保の取り組みについては、新規の保育士や潜在保育士の確保、処遇改善に伴う離職防止など幅がある。県としては、保育士確保に努めている市町村の支援を進めていきたい。

具体的には、市町村が国庫補助事業を活用している保育士確保事業や市町村独自で保育士確保に取り組んでいる事業について、沖縄県も支援をしていきたい。

入所調整については、A Iを導入し、ミスマッチの解消や早期の入所調整により次の待機児童の方へスムーズな運びはできないか等、次年度以降の県の支援を検討中であり、2月定例会で提案したい。

〔委員〕

○ 各市町村の確保方策と見込み量は、無償化が始まり県外の自治体は早いところは1月下旬から結果が出ている。そこで待機児童が予想より多く出そうだという自治体の声をニュースなどで見聞きするが、沖縄県の計画は、各市町村が無償化をどれぐらい想定して出しているのか、把握していれば、教えていただきたい。

県外の状況は、恐らく見直しが入ると思う。沖縄県では計画に齟齬が出た場合、見直しをどう進めるのか。

また、自分の経験として、毎日長時間過ごす保育園が本当に安心・安全なのか、不安を抱えたまま預けた施設もあった。数も大事だが質も大事にしてほしい。本会議では質も議論されていたので、継続して今後も検討いただきたい。

2点目。学童保育について、全国的に4月から基準どおりの定員で運営することになって

いる。私の校区では、今まで1年生は必ず入れたが、定員ができたことで待機が出るという話を聞いている。学童保育も保育の量に合った待機児童対策を講ずるべきである。

保育園に入れて、親は仕事を続けられても、小1の壁で労働が中断され、特に母親の人生を変えられてしまうのはもったいないと思う。

〔事務局〕

○ 無償化を見込んだ計画への心配の声だと理解した。平成30年度から市町村に対する指導を行い、無償化を踏まえた量の見込みの数字を出してもらったが、多少の見直しは出てくるだろう。

令和元年11月の段階では、待機児童解消年度を令和3年度末としていたのは、石垣市と南風原町のみであったが、令和2年2月の段階では、糸満市、豊見城市、宮古島市も待機児童解消の時期を令和3年度末としている。これは無償化を踏まえて見直しが行われたためである。

沖縄県としては、待機児童解消の目標を令和3年度に掲げ、市町村と連携して取り組んでいきたい。

無償化によるひずみにより、安全性や保育の質が低下することはあってはならない。認可外保育園も含めた現場の声を聞きながら取り組んでいきたい。

学童保育については、公的施設活用などの事業内容を拡充しながら進めている。民間の力も借りながら、学童保育に待機児童が出ないよう市町村と連携して取り組みたい。

〔委員〕

○ 幼児教育専任の指導主事等が配置されていない市町村が多いので、沖縄県子育て支援課と義務教育課が連携し、幼児教育班ができることを期待している。

そして専任指導主事がない市町村への研修、全ての幼児教育・保育施設で同様の研修を開催していただきたい。

沖縄県の子どもたちが、どの市町村、どの施設にいても質の高い教育と保育が受けられるよう計画を進めてほしい。

〔会長〕

○ 本計画案は、第1回から第3回までの沖縄県子ども・子育て会議の委員意見、また県民

のパブリックコメントを踏まえたものである。本案で了承してよろしいか。

〔異議なし〕

〔会長〕

- 以上で議事を終了する。長期間にわたる計画作成のご協力に感謝する。
今年度最後の会議につき、委員の皆様から一言ずつご発言いただきたい。

〔委員〕

- 沖縄県の皆様には、「黄金っ子応援プラン」作成につき、我々委員の声、パブリックコメント、その他、資料・情報等をまとめ上げたことに、心から敬意を表したい。
今後、市町村や現場の皆様が「黄金っ子応援プラン」に沿い、それぞれの部署で活用することで、このプランが生きてくると受け止めている。
今後も待機児童や子どもの育ちの部分で協力していきたい。

〔委員〕

- 国の方向性として、社会的養護は、施設からより家庭に近い里親にとなっている。施設は小規模化、地域分散化、多機能化と変化している。
今後それを担うのは里親に移っている状況である。里親登録が増える中で、里親への支援が大きな課題である。
児童相談所が強化される中で、里親を支援できるよう職員配置の強化、施設の地域分散化、小規模化など、沖縄県にはより具体的な支援を期待している。

〔委員〕

- 貧困問題や子どもを取り巻く現状の話題が変化している。SDGsは私たちが日ごろから意識している人権の視点でも外せない内容である。SDGsも活用しながら、沖縄県と協力し、こども虐待防止のために私たちにできることを現場で行っていきたい。

〔委員〕

- ひとり親支援の活動の中で、小さい子どもを抱えている母親や、待機児童や小中高と進

学に際し課題を抱えている方を多くみてきた。子ども・子育て会議の内容は現場とリンクしてイメージが湧き、勉強になった。

沖縄県や保育施設に任せきりではなく県民の一人として、またひとり親を支える職員として、会議で話し合われたことを意識しながら日頃の現場で生かしたい。

〔委員〕

○ マイノリティの立場から、望まない10代の妊娠で医療や保健のお世話になり、生まれた子どもが障害児だと医療・福祉のサービス利用が始まる。

母親の働く場所、住む場所、母子が生活するためのサービス。自分の体だけでなく、パートナーの体も大事にするという教育の視点から、SDGsの「誰一人取り残さない」というスローガンを共有するために、経済的・教育的に厳しい人たちにとっては、縦割りではなく横の連携こそが大事であるので、今後ともよろしくお願ひしたい。

〔委員〕

○ 最近のテレビドラマでは女性の医師や警察官、弁護士が増えてきた。それを見て、医師や弁護士は大変だけど職業として憧れるお子さんが多い。

一方、保育士は、給料が低く過酷、憧れの職業からは外れている。

そこで、子どもが憧れて、保育士になりたいと思う視点でヒーロー、ヒロイン、広告塔をつくる、そういう人材確保・質の向上につながるものがあってもよいのではないかと思う。アイデアとして申し上げる。

〔委員〕

○ 子育て支援課の皆様のご尽力に対し敬意を表したい。

私は妻、義理姉も義理母も保育士で保育士一家に婿入りし、保育士の働く環境等々を聞いている。

労働組合では「ディーセントワーク(働きがいのある人間らしい仕事)」という言葉を使い、働きがいのある職場環境づくりを目指している。

保育士・幼稚園教諭・小学校教諭は、個人の優しさや善意に頼りすぎている面がある。実際には給与・待遇面で大変な面も多い。

それをすべて経営者が解決することはできない。沖縄県や行政の力も必要である。労働組

合も相談には乗れる。お互いの意見をすり合わせ、ウィンウィンになれる環境を、こういった会議の場があることによってつくれると思う。次年度も皆様と一緒にいい環境をつくっていききたい。

〔委員〕

○ 第一期の黄金っ子応援プランに関わった者として、計画どおりにいかなかった部分について、責任やふがいなさを感じつつ第二期の計画策定に関わらせていただいた。

沖縄県は戦後、民の力で地域で保育を担ってきたことから、全国とは異なる形で保育格差が大きい。全国にも誇れる保育環境をつくりたいという思いで発言をさせていただいた。

沖縄県の皆さんには厳しい意見も投げかけたが、丁寧に返答をいただいたことを感謝している。

引き続き、私も保育者の一人として、沖縄県民の一人として、保護者、子どもたちを支えて育てる一員として尽力していく。私達がつくった黄金っ子応援プランが、計画で終わることなく、誰一人取り残さない沖縄県になることを祈念し、すべての皆さんに感謝申し上げる。

〔委員〕

○ 私のつたない意見をくみ取っていただき感謝する。

幼児教育は大事と言われても、なかなか日の目を見ないと言われるが、沖縄県が幼児教育・保育の大事さを黄金っ子応援プランで示すことにより、日々の活動の後ろ盾になり、ありがたく思う。

今後は、この施策がどのように実行されるか期待しつつ、子どもたちのために頑張っていきたい。

〔委員〕

○ 沖縄県私立保育園連盟は、乳幼児期の保育・教育を公の責任においてということを理念に掲げて、平成27年から公的責任のあいまいさに向き合ってきた。その中でできた黄金っ子応援プランに期待している。

また、各市町村による教育・保育の質の差がある中で、沖縄県のリーダーシップにより、子どもたち一人一人が、質の高い教育・保育のもとで育成されていくことを考えると、皆様がエネルギーを注いできたことに感謝申し上げます。

〔委員〕

○ 近年、核家族での子育ての様子が変化していると現場で感じる。市町村によってもさまざまな問題があり、現場だけでは解決できないことも多い。保育士確保、質のよい保育、地域とのつながりの問題を1つずつ解決していかなければならない。

今朝、保育園の隣の住人から「子どもたちの声を聞いて元気をもらっている。保育士の仕事はすごいですね」との声をいただいた。子どもたちを育てる場所は、地域にとっても保育園があつてよかつたと思われるような現場でありたい。社会で子どもたちを育てる大切さを感じ、保育士の仕事に誇りを持って携わらなければいけないと感じた。

今後とも保育士の確保、質の向上について、沖縄県も一緒に取り組んでいただきたい。

〔委員〕

○ まず、皆さんに感謝申し上げたい。そして皆さんに保育士だけでなく、幼稚園教諭も大事ですということを申し上げておきたい。

子ども・子育て支援新制度が始まる前は、私立幼稚園は沖縄県私学課と話をさせていた。認定こども園に移った幼稚園は市町村と話をするようになったことが大きな変化である。

平成27年から5年経過し感じていることとして、当たり前のように広域保育をしてきた私立幼稚園の立場からみると、市町村の壁を感じる。特に2号、3号の場合は隣の町から入ってくるのに障壁がある。どうしても1つの市町村では限界があるので、そこを沖縄県がうまくリードしていただき、市町村間の調整をしてほしい。例えば、糸満市・豊見城市の待機児童が多さは、隣の那覇市で12個席が空いているなど、その調整をするのが沖縄県の役割だと思う。意見を聞いていただき、日々努力していただいている皆様に感謝申し上げます。

〔委員〕

○ 3年間、この会議ではとても勉強になった。私は子どもが1人おり、東京都、兵庫県、沖縄県と出産後に移り住んだ経験があり、どの地域でも保活をしていたが、東京都から兵庫県に引っ越す際には、現地に家を借りていないと選考で不利になるといわれ、30万円支払い家を借りたこともある。子を産み、働き続ける、ただそれだけのために、これほど気力、体力、お金を使わなければいけないのかと思いながら子育てをしてきた。

一緒に保活をしていた方の「社会から歓迎されていない気がする」という言葉が胸に刺さり、共感した経験がある。

待機児童という言葉の背後には、いろいろな思いがあり、それぞれの悩みや苦しさがある。一刻も早く解消してほしい問題だと思う。

よく言われるのが小学校は待機児童がいないのに、なぜ保育園には待機児童がいるのか。

また、70代の方からも昔も同じように苦勞したという話を聞く、なぜ、30年経っても解消してないのかが疑問である。

令和3年に本当に達成してほしいと願う。引き続き、皆さん、頑張ってくださいと思う。

〔会長〕

○ 黄金っ子応援プランの第一期から関わらせていただき、委員の皆様のご発言に感謝する。制度や政策は、私たちの生活に直結する大切なものだと感じる。

国はエンゼルプランから始まり諸政策を進めてきた。時代に合った保育の制度にしようとして新制度がスタートしているが、沖縄県もそれに沿って努力され、委員からの意見を前向きに受け止めていただき、感謝する。

黄金っ子応援プランは第二期に入るが、計画を強く推進してほしい。

子どもの成長は待ったなしである。大人の責任をしっかりと返せるよう、皆で努力していきたい。

次に、計画案の終了にあたり、事務局からご挨拶をお願いしたい。

〔事務局〕

○ 子ども福祉統括監 本日、第二期の黄金っ子応援プラン案を取りまとめることができた。委員の皆様には多忙な中、専門的な立場からご意見を賜り、感謝する。

「待機児童対策は新たなステージを迎えた」と、委員のお言葉があった。

これまで受け皿をつくることから、地域ごと、年齢ごとのニーズを踏まえたきめ細やかな対策を進めることや、保育士・幼稚園教諭の処遇向上の問題、どこの施設にいても質の高い幼児教育・保育を提供していける体制の整備、また、黄金っ子応援プランは障害児の教育・保育の問題や要保護児童対策等も記載がある。

教育・福祉・保健・その他、幅広い分野の連携を強化し、この計画が実効性のあるものと

なるよう取り組んでいきたい。より実効性のある支援につなげてほしいという言葉が心に強く残っている。責任感を持って取り組んでいきたい。

現委員の任期は2月12日で終了となるが、今後もそれぞれのお立場で第二期黄金っ子応援プランについての意見、ご協力も頂戴したい。

健やかな子どもの成長ができる社会の実現、子育ての喜びを保護者が感じられる社会の実現に向けて取り組んでいきたい。ご協力に感謝申し上げます。

〔会長〕

○ 以上で会議を終了する。円滑な議事進行及び貴重な意見に感謝する。

事務局から事務連絡を伺い、閉会としたい。

〔事務局〕

○ 車をご利用の方は、駐車券を1階の守衛室へ提示してほしい。

本日の議事概要(メールにて後日送信)をご確認願いたい。

■会長は、すべての議事を終了した旨を述べ閉会を宣言した。

閉会